

神郷校区まちづくりタウンミーティング 開催結果報告書

開催日時 令和8年7月14日（火）19時00分～19時49分
場所 神郷公民館
司会・進行 神郷校区連合自治会長
参加者数 男54人 女11人 合計65人



1. 市の重点事業に関する質問

（質問者）

地域公共交通の見直しは、どういう方針で進めている状況か伺いたい。

（市長）

地域公共交通計画を策定しており、現在、その見直しを進めているところである。コンサルタントの意見も踏まえると、この課題は本市だけのものではなく、地方部では全国的に共通する課題である。特に重要なのは、現在存在する交通手段をいかに維持していくかという点である。一度失ってしまうと、代替手段を確保することは極めて難しく、多くの地域で同様の問題が生じている状況である。

一方で、ドライバー不足は深刻化している。バスやタクシーの運転手の確保が困難な状況にあり、当初予算において人材確保のための補助金を計上したものの、十分な応募には至っ

ていないのが実情である。

こうした状況を踏まえ、現在、地域公共交通の全体計画をどのように再構築していくべきか検討を進めているところである。現時点で明確な解決策を示すことは難しいが、極めて困難な課題であることは間違いない。

2. その他（文書課題について）

長岩貯水池西側道路護岸工事について

（会長）

先日、県へ確認を行ったところである。県道については3～4年にわたり通行止めが続いているが、昨年この場で意見が出されたことを受けて県へ状況を確認したところ、「令和8年度には通行可能な状態にする」との回答を得ている。

舗装などの最終的な仕上げの時期については未定であるものの、まずは通行できるよう整備を進める方針であるとのことであった。

災害時の生活用水の確保について

（会長）

昨年も要望していた「災害時の生活用水の確保」について伺う。市内4か所に防災井戸を設置しているとの説明を受けているが、高津公民館に設置されているという認識でよいのか。また、断水時には高津公民館の井戸を利用できるという理解でよいのか。

（危機管理課長）

川東校区においては、高津公民館及び浮島公民館に防災井戸を設置している。断水時には、これらの防災井戸を生活用水として活用していただきたい。

また、神郷小学校には500ml ペットボトル 504本、川東中学校には同 288本を備蓄しており、生活用水として活用できるよう準備している。必要に応じて利用していただきたい。

（会長）

理解した。これは、賞味期限が切れた飲料水を、顔や体を拭くなどの生活用水として活用する趣旨であると認識している。各家庭においても、備蓄している飲料水を有効に活用することが重要であると考え。

ふれあい事業交付金について

（会長）

昨年この会で提案された「ふれあい事業費を1人当たり1,000円から1,500円へ増額してほしい」との要望については、市長の尽力により500円の増額が実現した。この会で出された意見が直ちに実現するものではないが、地域として声を上げ続けることが重要であると考え。

今後も各自自治会で意見を取りまとめ、連合自治会を通じて市へ要望を行い、できる限り実現につなげていきたいと考えているので、引き続きご協力をお願いする。

大川の安全対策について

(会長)

水路への反射板の設置を要望したところ、早速対応していただいたことに感謝申し上げます。すべてを短期間で整備することは難しいと思うが、今後も継続して安全対策に取り組んでいただきたい。

サル・イノシシによる被害への対応について

(質問者)

サルによる被害が年々増加している。資料を見ると、年間の捕獲数は1頭程度とのことであるが、この状況では被害の増加に対応できていないのではないかと。猟友会などによる駆除をさらに進めることはできないのか。非常に深刻な状況である。

(農林水産課長)

サルについては、新居浜市全体でも年間20頭程度しか捕獲できていないのが現状である。サルの捕獲は非常に難しく、餌付けによって誘導しなければならないため、容易ではない。

現在は船木地区及び大生院地区での出没が多く、地元住民の協力を得ながら「地獄檻」の設置を検討している。ただし、行政のみで対応することには限界があり、餌付けなど地域の協力が不可欠である。

今後、船木地区や角野地区などで同様の取り組みを希望する場合には、先行事例を参考にしながら適切な方法を提案していきたいと考えている。

当面は煙火による追い払いなど、サルを人家の近くに寄せ付けないための取り組みを継続してお願いしたい。

(質問者)

煙火花火で追い払っても、30分ほどすると再び戻ってくる状況である。駆除を目的とした銃による捕獲は考えていないのか。

(農林水産課長)

基本的には難しいと考えている。山際ではサルの移動速度が速く、銃による捕獲も容易ではない。まずは地域全体で継続的に追い払いを行い、サルを寄せ付けない環境づくりを進めることが重要であると考えている。

(質問者)

現在は川東地区でもサルが出没しており、民家の屋根の上を歩き回るなど危険な状況となっている。駆除も含めた実効性のある対策をお願いしたい。

(農林水産課長)

猟友会とも連携しながら対応を進めていく。危険な状況が発生した場合には、市や警察へ連絡していただきたい。状況に応じて追い払いなどの対応を行う。

(質問者)

先ほどの回答を聞くと、不安を感じる部分がある。市街地ではそれほど実感しないが、上部地区や郷地区、楠崎、阿島、東浜などではサルが非常に多く出没している。

提案であるが、より効率的かつ先進的な捕獲方法について検討していただきたい。例えば、大型の囲い罠を設置し、多数のサルやイノシシを一度に捕獲する方法である。海外では大規模な捕獲施設を活用している事例もある。

猟友会だけで対応するには限界がある。高齢者が苦勞して育てた農作物が被害を受けている現状を踏まえ、予算の確保も含めて、より実効性のある対策を真剣に検討していただきたい。

4. 市長まとめ

社会情勢や時代の変化に伴い、新たな課題が次々と発生している。先ほどのサルの問題もその一例であり、これまであまり聞かれなかったクマによる被害も近年増加している。また、公共施設の老朽化をはじめ、地方自治体が抱える課題は多岐にわたっている。

このような状況だからこそ、行政だけでなく地域住民の皆様と力を合わせ、知恵を出し合いながら課題解決に取り組んでいく必要がある。行政としても中心となって対応を進めていくので、今後とも皆様からのご意見やご協力をお願いしたい。

本日は長時間にわたり貴重なご意見をいただき、感謝申し上げます。